

『農業山口』一九六一年二月（山口県農業関係）

望ましいグループ活動の姿

くやる気になることが大切だ

国立教育研究所 矢口 新

■理想について

グループ活動が、いきいきと行なわれるには、まず第一に、一つやろ・う・じ・や・ない・か・という意欲があることが必要である。それは理想といってもよい。理想に燃えていることが必要なのである。しかし、意欲といい、理想に燃えているといっても、中味はいろいろである。一般的に言えば、どんな理想でもよいけれども、実際問題としては、ただ一人一人が勉強しようとかいった理想では、グループは分解してゆくことが多いようである。つまり個人的な意欲だけでは、長い間にはバラバラになるおそれが多いということである。どうしても社会的な理想といったものが、中核になくしてはならない。やはり個人の気持ちを満足させるということでは、団結といったことは出来ないからであろう。個人の気持ちを中

心にしたのでは、みんなのグループはまとまらないということであろう。個人をおさえる何物かが必要であつて、それは、社会的な理想、こういうことを世の中で実現しようじゃないかといったものが必要なのである。そういうものによつて、みんなが手を取りあつて進んでゆくのである。

グループの活動が活発になるということは、メンバーがそれぞれがまんをすることである。活発になれば、それだけ忙しくなるのである。どうしても、顔をつきあわせることも多くなる。そういうことが出来るには、一人一人がかなり犠牲を払うことになるのである。理想があれば、それは楽しいことだが、理想がなければ馬鹿らしいことである。自分だけのことを考えていれば、自分の関係のない忙しさは避けようとする。それではグループは維持してゆけなくなるだろう。

■指導者について―自立性との関連

次に指導者について考えてみよう。指導者と一口に言うが、巾が広い。青年の集団だから青年だけで集団をつくらなくてはならぬというのではないと思う。相当な年輩の指導者がいた方がよいように思う。年輩の人がいると、青年の自主的な活動にならないという人がいるが、それは形式論だと思う。要は、その指導者の性格や、能力や、考え方による。青年とともに歩み、青年の自立性を生かしてくれる指導者なら、そういう人がいた方がよいのである。これまではあまり形式論にとらわれすぎて、よき指導者を排斥しすぎたと思う。

青年が自主的に進もうということは、よいことだけれども、ただ、それだけで、やれると思つたら間違いである。すこしでも社会的な活動をしようとしたら、様々な難関にぶつかる。あらかじめそれを見透して注意を与えてくれる人がいたら、不必要な難関にぶつかつて、玉碎てしまうようなことはないのである。青年はとかく絶対か無か、というような極端な考え方をしやすい。しかし、世の中のことは徐々に進む、段階を追うてやってゆくことも多いのである。そういう分別は経

験とともに出て来るのである。青年は自主的に活動して、そういう経験をして、だんだん一人前になってゆくべきであるが、それも青年だけの集団では、なかなかうまくゆかない。やはり分別のある人がいて、時々、ブレーキをかける必要があるのである。青年はブレーキをかけられることを、何か自立性をおかされたことのように考えがちだが、必ずしもそうでない。そこに指導者の人格と直接に接して、人間的成長をとげてゆく所があるのである。青年は、分別のある立派な人格者を指導者として仰ぐだけの心の中がなくてはならないと思う。

民主主義ということが言われてから、若い人が大人を敵だと言うような雰囲気が生じて来た。新しいものを育てるには、それもまた必要なことであつたが、これからは、もう少し青年も大人になってよいと思う。豊かな経験をもつ人の意見をじっくり聞いて、参考にする考え方も、もつと出て来なくてはならぬ。形式的民主主義で、自分の意見に合わない人は皆封建的だと片づけてしまうような態度は、最も民主的ならざる者である。そういう民主主義は情緒的な民主主義、感情的民主主義というべきで、それでは、合理的な生活は生み出されない。それでは、けつきよく

は一人一人に分裂する。

自立性はよいことであるが、それがとかく感情的民主主義と結びついていたりすると、そういう零囲気の所では、グループ活動は育たない。よき指導者も出て来ない。グループは分裂することが多いのである。

■学習活動について

学習活動はどんぐりの背くらべの中では、本当には行なわれない。どんぐり同士が仲よくやつて、ちよつとの間は大変よいようだが、そういう考え方では、やがてあきが来て、つぶれてしまうものである。やはりすぐれた人物がいなくてはならないのである。それは指導者であつてもよい。仲間の中の中心人物となる人であつてもよいが、そういう人の指導がなくては、学習活動というものは、本当に行なえないのである。

学習を行なつて、一人一人もたえず進歩していなくては、グループもまた、育つてゆかないものである。しかし、ここで学習を行なっているというのは、いわゆる学習で何かを勉強しようと考えて、本を読んだり、人の話を聞いたりすることばかりではない。もつと広い意味の学習である。あるいはグループで活動していることが、結果において学習にな

っているという自覚が伴うような活動であることである。たとえば、何か社会的な活動をする、その計画をたて、いろいろな人と交渉し、関係をもつて、みんなで実行をしてゆく。その間に、よき指導者がいて、先を見透していろいろ助言をしてくれたり、足りない所を注意してくれたり、失敗を転じて福としてくれたりするとする。それに関係した人は、なるほどそうか、そういう風に考えたり行動したりするのか、自分は浅はかだった、というように感ずることがある。よい勉強になったと感ずることがある。そういうことが、本当に学習になつてゆくわけであろう。

そういう学習によつて、一人一人が進歩するのである。その進歩が、グループをますます強く団結させるのであろう。そういう所にはグループの分裂はないと思う。グループを愛し、これをもりたてようという気が、ますますよくなるのである。それが同時に、自分を育てることでもある。そういう調和が大切である。

■虚をすてて、実につく

グループ活動をするということの意義は何だろうか。一人一人が人間として育つてゆくことは、最も大切なことであらう。しかし、

はじめに言ったように、自分がのびればよいという意識だけではグループは育たない。それではグループが育てば、一人一人は問題でないかというところでもない。だからグループ活動には両面があるのである。一人一人が育つこと、仲間が出来ること、この二つである。グループが活発に活動することを願うことはよい。とくに、グループの中心になる人は、グループがどんな社会的な仕事をしてゆくというようなことを願う。しかし、それを願うあまりに、実質大切なことを忘れて、虚名を追うようなことになってはならない。実を忘れて虚を追うことは、けっきょくグループが虚になることである。そういうグループの例を私は非常に多く知っている。看板をかかげて、人の目に立つようなことばかりを追究する。功名心の多い青年にとかくそういう人が多い。それも決して一がいに否定するわけではないが、その結果、実質的に一人一人がのびてゆくことが忘れられたり、本当に社会のためになる仕事忘れられたりする。ことは、往々にしておこりがちである。虚名をはせることをそのグループが願ったり、個人が願ったりすることなどは大いにいまいめなければならない。

つまり人生の真実は何かを追究すること

が一番大切なことであって、最近の風潮になつてゐるマスコミにのることや、正当ならざる報酬を要求したり、濡れ手でアワといった考え方をする所からは、本当のグループは起つて来ない。

4 Hクラブの発表で、賞をねらつてプロジェクトをするなどというようなことがあつたら、そういうことはやらない方がよい。自分のプロジェクトは、自分のおかれた社会と自分の能力や位置から、必然にしなければならぬものとして出て来るべきものである。

「われなすべきなるが故に、これをなす」ということでなくてはならぬ。そういうグループでありたい。

■おのずから命あり

ある時代に、ある人々によつてつくられたグループは、その使命が終れば消滅するものもある。それはそれでよいのである。また、若い頃つくつたグループが、その人々が生きている限りつづいて、人々の死とともに終るものもある。それもまたそれでよいのである。グループ活動は学校ではないから、心ずしも一定の年齢になつたら卒業して、若い人が次々へと入つて来なくてはならぬものと考へなくともよいであらう。そういう固定した

考え方をもちたい方がよいと思う。そういう固定した考え方にとらわれると、かえつて、そのグループが真に何をなすべきかを忘れてしまふことになることもある。大切なことは、なすべきことをなすグループがあつて、活発にやることである。

そういう活動をやっているのを見て、他の人々が自分も中へ入りたいと考えることもあらう。そういう時は、仲間に加えてやればよいのである、しかし、あるグループの活動は、そう無限にひろがらないで、これだけのメンバーに限つておくということだつてあつてよい。

グループは大きくなるのが能ではない。また、次々と若い人が入つて来るべきだなどときまつたものでもない。それはどういうグループなのかというグループの性格から自らきまつて来るのである。

ただ、人を集めればよいのなら、レクリエーションの大会でもやれば人は集つて来る。そういう風に、人を集めるなどという、末梢的なことに、こだわるともうそれは墮落の第一歩だといつてよい。やはり本当のことをするということが大切なのである。